

に留まったものの、市の基準の測定高5センチメートルで超過した件数は2千71世帯で、測定件数の約58パーセントが市の基準を超過していました。また、除染作業は、市の基準を超過した千785世帯から除染申請があり、2月15日現在、千620世帯90・8パーセントの除染を終了しました。

24年度内の除染完了を目指し、引き続き取り組んでいきます。ただし、コンクリートのたたき

等の除染は、回収型高圧洗浄で市で検証したところ、洗浄後でも市の基準を満足する結果とならず、洗浄後の排水処理の問題が残っています。これらは本年度中に除染完了が難しい状況で、新たな除染方法が確立されるまで様子を見たいと考えています。



除染を住宅地に基本を返し天地

市内公共施設等の測定や除染は、子ども関連施設以外にも含め、おおむね終了し、除染実施の有

無などに応じて、施設ごとに年に1回から数回の放射能モニタリング検査を実施し、放射線量の推移を確認しています。

公園は、昨年4月に再度市内全てで放射線量を測定し、基準を超過していた公園の除染は完了しましたが、その後、園路沿い、樹木の下、遊具の下の雨だまり等で放射線量が高くなってきたりしている箇所の随時除染を実施しています。

市内の全小中学校の通学路における、いわゆる「黒い物質（土）」の除染は、現地確認の結果210か所のうち国道や県道に該当する29か所の測定結果の情報提供を千葉国道事務所や東葛飾土木事務所野田出張所に行い、残り181か所のうち、2月15日現在で177か所の除染を終了し、年度内の除染完了を目標に対応していきます。

今後も、空間放射線量が市の基準を超えている箇所は、随時除染を実施していく考えです。

福田地区の学校4校と保育所2か所の想定年間積算線量を計算したところ、0・117から0・480ミリシーベルトまでで、年間1ミリシーベルトを超える学校や保育所はありませんでした。

保育所、こだま学園、あさひ育成園、公立幼稚園、公立小学校の給食食材は、引き続き「調理前給食食材検査」と「調理後1食まるごと検査」を実施しています。10月から消費者庁の貸与検査機器が2台になり、検査品目を増やすとともに、認可外保育施設や私立幼稚園の「調理後1食まるごと検査」も希望

にに応じ実施しています。さらに、この貸与検査機器を利用して10月から始めた野菜や飲用井戸水などの市民持込検査は、2月15日までに268件の測定を行い、そのうち自家栽培のしいたけ1検体が国の基準値を超えていたため、本人に注意喚起を促しています。その他の検査結果は、現在まで、いずれも国の基準値以内になっています。

野菜等の検査は県で進めており、野田市産の大豆、ゆず等の30品目91検体の検査では原木露地



実施する市民持込検査の野菜や井戸水

## 寄 附

- ◆社会福祉施設整備基金指定寄附金…▶10万円=野田商工会議所女性会(中野台)▶10万円=良恵男会会長中野教吾様(宮崎)
- ◆災害対策費指定寄附金…▶185,213円=花山流則寿会代表花山琴則華様及び野田どじょこの会代表小山則子様(七光台)
- ◆災害時の非常用飲料水…▶ペットボトル入り飲料水2リットル1,200本(12万円相当)=株式会社サンベルクス代表取締役社長鈴木秀夫様(足立区)
- ◆みどりのふるさと基金指定寄附金…▶100万円=佐藤健一様及び佐藤玲子様(山崎貝塚町)
- ◆青木半治杯第64回中学校対抗銚子半島一周駅伝大会で優勝した南部中学校の学校教育物品購入のため…▶10万円=ちば東葛農業協同組合代表理事組合長勝田実様(柏市)

栽培のしいたけが出荷自粛になつていますが、その他の野菜や穀類は基準値を下回っていません。また、市の独自検査でも11月20日以降に、みかん、かりん、きんかん等の6品目の検査を行い、結果はいずれも基準値以下です。

今後も農産物や農地の土壌を対象に、市内全域できめ細かく検査を実施する予定です。

堆肥センターは、搬入された

剪定枝等から、1キログラム当たり12月は180ベクレル、1月は98ベクレル、2月は82ベクレルの放射性セシウムが検出され、堆肥化の目安となる200ベクレルを連続して下回ったことから、1月に搬入された剪定枝等から堆肥化を再開しています。今後、検査を行い、適切に対応したいと考えています。

道路側溝汚泥は、中間処理後

の汚泥の放射能濃度を11月8日、1月25日の2回測定したところ、1キログラム当たり2千911から2千914ベクレルまでであり、国の埋立基準である8千ベクレルを大きく下回っていました。

なお、2月15日現在の道路側溝清掃の状況は、昨年度の積み残し分や除染も含め要望件数505件に対し、清掃済みが463件となつています。

一般廃棄物焼却施設の焼却灰の放射性セシウムの濃度測定は、2月まで、清掃工場、第二清掃工場、関宿クリーンセンターの3施設とも国の埋立基準を大幅に下回るもので、市外の最終処分場で埋立てを行っています。また、24年1月から毎月1回3施設の敷地境界等の空間放射線量を継続して測定しており、全ての箇所ですら0・23マイクロ